□議員名：山田伸幸

１　２０３０年度開校を計画している山口東京理科大学厚狭キャンパス新学部建設について

論点	厚狭のまちでは理科大厚狭校舎建設に対する期待が大きかったが、建設中止に至った経緯、理由は何か
回答	建設費の積算を行ったところ約１３０億円となり、財政計画が成立しないことから今年３月に構想を断念した。

論点	厚狭のまちの皆さんにとっては、期待をさせてやめましたでは納得いかないことである。計画断念の責任は誰にあるのか。
回答	市と大学が協議しながら進めてきたもので、苦渋の決断ではあったが賢明な判断を行った。

論点	計画の断念を決定したのは誰なのか。大学の理事会か、開設者である藤田市長であったのか。
回答	市の上層部、大学側の学長、理事長などと会議をして計画断念を決断した。

論点	計画断念の後として、厚狭小学校の移転を発表されたが小学校の関係者、ＰＴＡなどとの協議はしたのか。
回答	行っていない。

論点	先ほど財政計画のことを言っていたが、大学では二つの校舎を建設しているところでそもそも厚狭校舎の財源のことは置いておかれたのではないのか。
回答	厚狭校舎の建設の計画前から、二つの校舎建設の計画はあった。

論点	厚狭のまちの皆さんが大変期待をされ、厚狭川水害以降、復興に頑張ってきて大学の進出でまちが活性化すると期待が大きくなっていた。そんな期待を裏切るわけであるから、藤田市長が厚狭の皆さんの前に出て、事の経過を説明に出向くべきではないのか。

回答	苦渋の判断をしたことに理解いただきたい。今後は総合的にまちづくりに寄与していきたい。